

NHK「焼き場に立つ少年」をさがして、の不適切報道に関する意見書

令和元年 8 月 7 日
長崎県保険医協会
会長 本田 孝也

被爆地点について

番組では少年は爆心地から 1.5Km の銭座町で被爆したのではないかと推測している。しかし、残念ながらそれを証明するものは村岡さんの証言以外にはない。

番組では吉岡栄二郎氏の「『焼き場に立つ少年』は何処へ」をもとに、少年は旧戸石村の上戸明宏ではないかと推測している。

しかし、爆心地から 10Km 離れた戸石村の少年が銭座町で被爆したのは不自然であり、それを説明する合理的理由はみつかっていない。

吉岡氏は出版の 1 年半後に再度戸石村を訪れている。その模様が公明新聞に述べられている（別紙 1）。このことは NHK へ情報提供した。記事によれば、原爆投下時、少年は弟を背負い牧島の見える港近くの浜辺にいた。今回の戸石住民の聞き取りでこれを裏付ける証言は得られなかったが、戸石の住民なのだから戸石の浜辺で被爆したというのは自然である。

銭座町で被爆したか、戸石の浜辺で被爆したか、両者とも決定的な証拠がないのであれば、両論併記で放映すべきだと NHK へ提言したが、戸石の浜辺で被爆したという吉岡氏の情報は放送されなかった。

NHK から提供された資料にも

【原爆投下時に明宏くんはどこに居たのか？】

①長崎市中心部近くにあった父の借家

→この場合、被爆している可能性が高い

②戸石村

→戸石村が爆心地から約 14 キロ離れているので、被爆の可能性は低い。

ただ、原爆後の灰や雨に当たっていたら被爆しているかもしれない。

→原爆投下から数時間後、爆心地から 2 キロ圏内にある高台で明宏くんを見たという証言もあるため、

その場合は確実に被爆している。

-----出典：『焼き場にたつ少年』基本情報まとめ.doc 提供：NHK 令和元年 6 月 4 日

とあるが、放送されたのは①だけである。

里輝男さんのインタビューの字幕

戸石の明宏少年が長崎市街に行っていた理由について、明宏少年の小学校の同級生の里輝男さんはインタビューで「親子、長崎のほうに左官で、仕事でいきよらした」と述べているが、映像の字幕は「親子で長崎（中心部）のほうに左官の仕事で引っ越した」となっている。

引っ越していれば銭座町で被爆してもおかしくない。ところが「いきよらした」は方言で「行っていた」の意味で、正しくは「親子で長崎（中心部）のほうに左官の仕事で行っていた」となる。

「行っていた」と「引っ越した」では意味がまるで違う。これは明らかに誤った報道である。

8 月 1 日に当会会議室でこの点を NHK の番組プロデューサーに正したが「持ち帰ります」との返事だけで、その後連絡はなかった。8 月 2 日の夕方の NHK のニュースでも訂正はなかった。8 月 3 日の再放送では「親子で長崎（中心部）のほうに左官の仕事で行った」と訂正されていたが、訂正した説明はなかった。

写真のカラー化と目の出血の跡

番組では写真のカラー化に際し、写真を拡大してみつかった右目の黒目の傍

らのグレイの部分に齋藤紀先生に照会している。齋藤先生はグレイの部分は出血の跡ではないかとの見解を述べ、同時に鼻栓が映っている可能性も指摘した。齋藤先生は被爆者の出血傾向についての一般論を解説しているのに、ナレーションはそれを少年の個別事例として解説している。写真が撮影されたのは昭和20年の10月、爆発から2ヶ月後で血小板は既に回復している時期である。しかし、NHKはこの事実を齋藤先生に正確に伝えていない。そのため齋藤先生は被爆者の死体が数多く火葬された原爆直後の時期を想定して被爆者の一般論を解説している（齋藤先生に確認済）。

番組では、カラー化された目の映像を背景に「体中が出血しやすくなっていたと、考えられるからです」とナレーションで解説しているが、これは誤りである。白目（眼球結膜）の出血は健常人でも普通に見られる所見あり、白目に出血があるかといって体中が出血しやすくなっていたとはならない。齋藤先生もそのようには述べていない。

番組では、齋藤先生が目の拡大をボールペンで指す映像を背景に「この写真のカラー化により、少年の体には放射線障害の症状があらわれている可能性がある」とナレーションで解説しているが、これも誤りである。齋藤先生もそのようには述べていない。白目に出血があるかといって放射線障害の症状があらわれていることにはならない。また、写真のカラー化でわかったのではなく、拡大して目の出血の可能性がわかり、そのあとで色をつけたのであるから順序が逆である。

爆心地から1.5Kmの同心円と同心円上の銭座町を指して、「少年は1.5Kmのこの銭座町で被爆したということは言えませんか？」のアナウンサーのやりとりは、「少年の目の出血、鼻栓は放射線による血小板減少である」→「血小板減少は1グレイ以上でおこる」→「1グレイは爆心地から1.5Kmに相当する」

→「よって、少年は銭座町で被爆した」と風が吹けば桶屋が儲かる的な無理な論理立てになっている。冷静に考えれば、目の出血、鼻栓だけから少年が銭座町で被爆したことにならないのは自明のことである。

これに続く「とはいえ、この少年が被ばくした可能性が高まったことは確かです」も事実と反する。目の出血の跡、鼻栓があるからといって、この少年が被曝した可能性が高まることはない。後述するが吉岡氏は既に出血傾向と被曝の可能性に気づいており、資料が示すように NHK もその事実を知っていた。

【これまでに推測されてきた少年と弟の健康状態】

●少年と弟の口腔内出血について

ジョー・オダネル氏の記憶では「弟を背負う兄は唇をきつく噛みしめていたため、血がにじんでいた」と言う。だが、兄の口には傷は見当たらない……。また、この写真を詳しく調査した長崎新聞記者¹の故・吉岡栄二郎氏によると、背中の弟の口にも口腔内出血の跡が見られるという。

↓

血小板減少症で口腔粘膜症となり、口の中で出血か？

-----出典：『焼き場にたつ少年』基本情報まとめ.doc 提供：NHK 令和元年6月4日

目の出血の可能性や鼻栓の可能性よりはるかに確実性のある口腔内出血の事実を知っていながら番組では放送せず、また、カラー化に際しても唇ににじんだ血はカラー化されていないのは不適切と考えられる。

吉岡栄二郎氏の『焼き場の少年』は何処へ

番組は随所に「吉岡栄二郎氏の『焼き場の少年』は何処へ」（以下、本）の情報を用いているが、出典を明らかにしていない。ちなみに NHK の担当者は本の

¹ 原文のまま。吉岡栄二郎氏は長崎新聞記者ではない。当初 NHK が勘違いしていた。

存在、内容について熟知していた。

村岡さんが戸石の里輝男さんに会いに行くシーンで、本の表紙が映るが、「村岡さんが調査のたよりにしている本」「少年の足取りや撮影地について調査した内容をまとめたものです」としか解説しておらず説明が不十分である。

アナウンサーは村岡さん、里輝男さんについて「少年を知っている人達がいる。(中略) そういった方の存在が今になってでてくるというのは非常に富田さん、驚きですよ」「そうですね。去年この少年を知っているという人がいるということがわかり」とやり取りをしている。村岡さんの存在が明らかになったのは去年かもしれないが、里輝男さんの存在は既に2012年の本の中に記載されている(別紙2)。出典を明らかにしていないので、視聴者はNHKが去年初めて戸石に少年を知る人がいることを発見したかのように誤解しかねない。

番組は写真のカラー化により目の出血の跡が判明し、それにより出血傾向と放射線障害の可能性があることを初めて発見したかのように報道している。しかし、目の出血の跡や鼻栓によらずとも、少年にはもっとはっきりした出血の兆候があったのである。オダネル氏は「唇をきつく噛みしめていたため血がにじんできた」と振り返っている。吉岡氏はこの点を重視し、本の中で「この段階で、私には少年と幼子の足に見られる浮腫に併せ、少年の鼻に診られる血の凝結と滲んだ唇の血液は被爆後ニヶ月頃に多く見られた放射線被爆を原因として起きた血小板の減少による症状、いわゆる〈血小板減少症〉による口腔粘膜症の出血ではないだろうかと思えた」と述べている。NHKが写真のカラー化を行う前に吉岡氏は既に同様の考察を本の中で述べているのである。しかし、番組ではこの部分は引用していない。吉岡氏はその疑問を血液内科専門医に問いかけ「粘膜出血は確かに急性放射線障害、すなわち骨髄障害による血小板減少で起こる可能性があると思いますが、この少年がそうかを断定することはでき

ないでしょう」と正確な回答を得ている。

番組では写真の撮影地として、アナウンサーがパネルで場所を示し、「有力な撮影地として知られているのが、こちら東長崎の矢上町です」その理由として「写真を撮影したオダネル氏の足跡をたどるとここが有力だといわれているんです」とだけ解説している。しかし、矢上町が撮影地ではないかというのは、吉岡氏が5年間に20回も東京から長崎に足を運んでようやくたどり着いた推論である。矢上が撮影場所ではないかという吉岡氏の根拠を別紙3に示す。その後あらたに見つかった焼き場跡のシーンが映るが、吉岡氏が矢上町を撮影場所と推測した根拠は引用されておらず、視聴者に写真の撮影地として矢上町の焼き場が有力であることをNHKが発見したかのような誤解を与えかねない。

番組では村岡さんが長田小学校²の卒業名簿に明宏に似た名前を見つける経緯を「一方、独自にあの少年の行方と追いつけてきた村岡さんも、自らの仮説に基づき調査を続けていました」「戦後、あの少年は母親の実家があったと思われる諫早市に戻ったのではないかと考えています」と解説している。しかし、これは村岡さんの自らの仮説というより「村岡さんが調査のたよりにしている本」として番組内で紹介されている吉岡氏の本に書いてある事実である（別紙1）。

長田小学校の卒業名簿

番組は長田小学校の卒業名簿に似た名前の「中村明廣」があったことより、村岡さんがあった少年、戸石の上戸明宏がこの「中村明廣」である可能性を示唆して終わっている。しかし、「明宏」と「明廣」で漢字が違う。なにより「上戸」と「中村」で苗字が違う。写真が撮影されたのは昭和20年10月と推定さ

² 長田小学校は少年の実家と考えられている小長井町の近くにある。

れている。この時、少年の姓は「上戸」である。長田小学校を卒業したのは昭和21年3月であり、この間に姓が変わった合理的な説明はなされていない。そもそも「アキヒロ」という名前は珍しい名前ではない。NHKによれば「中村明廣」が「上戸明宏」と同一人物である可能性について事実確認はとっていないとのことであった。名前が似ているだけで、事実確認もせずに、あたかも同一人物の可能性があるかのように放映することは不適切である。

被爆時期と出血傾向

原爆投下後2ヶ月後には被爆しても通常血小板減少は回復し、出血傾向はみられない。原爆投下後に長崎の被爆者を対象とした調来助の調査結果によれば、長崎原爆による出血傾向は爆心地に近いほど頻度が高いが、爆心地から4Km以内のすべての地域で見られる（別紙4）。被爆地域だけでなく、被曝未指定地域でも残留放射線によると考えられる出血傾向がみられる。出血傾向から被爆地点を推定することはできない。